News! the 世界遺産

『候補遺産の維持・管理・公開に向けて』
～段階的な整備が着々と進んでいます～

国際的に貴重な文化財を世界遺産に登録することは、人類共通の宝物として保護していくことはもとより、適切に公開し、その価値や国の文化をより多くの方々に理解してもらうことも重要な目的の一つとなります。

鎌倉の文化財は、これまでも地域住民や市民団体、行政などが協働して、様々な保護や公開が図られてきましたが、「武家の古都・鎌倉」に関連する候補遺産については、世界遺産登録の推進を契機として、より積極的な活用を図ることとしており、国や県の協力を得ながら、維持・管理・公開に向け、段階的な整備が進められています。

【史跡永福寺跡】

平成 16 年度から保存整備事業に着手している史跡永福寺跡では、平成 19 年度から三堂基壇と苑池の復元に向けた工事に着手しています。また、平成 20 年度には、整備区域内の貴重な自然環境を守るための調査も併せて実施し、平成 24 年度末まで行われる予定の整備工事に反映されることになっています。

将来的には橋の復元や庭園の整備も行うこととしていますが、この工事にあたっては、地域の方々の理解と協力のもとで進められていることも忘れてはなりません。

【史跡朝夷奈切通・大仏切通・仮粧坂・名越切通】

鎌倉七口とも言われる切通のうち、世界遺産登録に関連する史跡朝夷奈切通・大仏切通・仮粧坂・名越切通については、歩行の際に危険と思われる木の伐採や朽ちて倒れた木の撤去、貴重な文化財にふさわしい階段や道標の設置など、史跡の環境の維持・保全と公開を目指した整備工事が行われています。

水路沿いに鎌倉石を積み上げた史跡朝夷奈切通

特に、名越切通については、逗子市側の史跡地においては、既に策定されている整備実施計画に基づき、本格的な保存・整備が行われており、今後は、まんだら堂やぐら群の一般公開に向けた事業が進められる予定です。

【史跡北条氏常盤亭跡、一升桝遺跡】

広く一般に史跡を公開していくためには、史跡へのアクセス性を高めることも重要となります。

木材チップを敷き詰めて歩行性を向上させた
史跡北条氏常盤亭跡のタチンダイに続く現道

史跡北条氏常盤亭跡、一升桝遺跡は、丘陵地内に主要な遺構が存在しているため、危険と思われる木の伐採や倒れた木の撤去と併せて、現道の整備も行われ、歩行性の向上が図られました。

【史跡仏法寺跡】

現在、非公開となっている史跡仏法寺跡は、一部の斜面で土砂の崩落が見られるため、史跡の保護と公開に向けた工事を実施する必要があります。平成 19 年度には、地質調査や倒れている木の撤去などが行われ、可能な限り早い時期に公開できるよう、取り組みが進められています。

史跡仏法寺跡

【史跡称名寺】

横浜市金沢区にある史跡称名寺では、境内の苑池に架かる橋の架け替え整備が進められています。平橋に続いて平成 20 年度には朱丹塗りの反橋が完成し、水面に鮮やかな影を映して、往時の浄土庭園の姿を再現することになります。